

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300865		
法人名	有限会社 郷		
事業所名	グループホーム郷 一丁目		
所在地	熊本県宇城市松橋町西下郷236番地		
自己評価作成日	令和4年7月26日	評価結果市町村受理日	令和5年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍という状況のため、面会が難しい状況であるが家族の方と交流が出来るよう、窓越しで携帯電話を活用し、支援を行っている。家族から「顔が見られて安心しました。」「元気な姿を見て安心しました。」等の声が聞かれている。また、利用者様は高齢化傾向にあり、一人一人に寄り添って耳を傾け、コロナ禍であっても出来る限りの取り組み行っている。施設内には季節の花が咲くため、天気の良い日に散歩やガーデニングティーを楽しんで頂きたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年、代表及び管理者を中心として意思疎通の良い環境は、入居者の出来る力を発揮させたり、思いの実現の具体化は日常生活の彩りとして生かされている。入居者の食べたい・行きたい等にドライブスルーでの買物やキッチンカー、移動パン等の活用は選択出来る環境やお金を使うという社会性の継続として生かし、入居者を“人”として尊重し、生活歴・習慣・嗜好等の背景をケアに反映させている。22年の時を経て、地域の中での生活基盤は地元力を得ながら今あるホームを築いたと謙虚さを忘れず、コロナ感染症により地域へ出る機会が減少したものの、“今”を視野に出来ることで地元住民との交流に努めている。入居者及び家族の思いである「ホームで最期まで過したい」との思いを実現させる等、高齢化傾向の中で職員の持つケア力が一層生かされることと大いに期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	raware	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の合同の朝礼を継続している。初めに理念を大きな声で唱和し、職員が毎月の目標を掲げ、達成に向けて目標の共有を行っている。	開設時より「自由・自立・安全・社会的支援」を理念として、各ユニットでの唱和により日々のケアに直結させて、ユニット毎の月目標（職員による策定）を中間評価を行う等全員が意識を統一している。自由な生活は（散歩に行きたい・寝たい等）の入居者の声に随時対応したケアや入院してもホームに戻りたいとの希望を叶えた事例等に出している。理念や目標が職員のケア姿勢として具体的に表われたホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため地域とのふれあい交流は難しい状況にある。	コロナ感染症により、これまで通り住民との交流は困難ではあるが、運営推進会議を介して民生委員との交流は続いている。また、近隣住民からの野菜の差し入れの継続や入居者と地元住民とのグラウンドでの交流等等今できる地域の中での生活を支援している。	コロナ禍以前のようにはいかないが、キッチンカーや移動パン等が立ち寄ることで入居者の日常の彩り（買物や選択できる場の提供）として生かされている。コロナ感染症の緩和により地域住民との交流の再始動に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者様の状況や出来事、職員の研修等の活動報告を行っている。また、悩みなど相談事にも専門職としての支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で一人ひとりの意見・助言を頂いている。毎月の行事や出来事などを掲載した「郷新聞」を配布しているほか利用者様の介護度、人数、平均年齢、職員の研修等の報告をしている。	運営推進会議開催前日に資料（行事報告・研修・身体拘束廃止委員会の状況、利用者状況等とともに郷新聞）を配布し、意見等があれば申し出て欲しい依頼しており、出された意見等は検討しサービスに反映させるとしている。行政からは、参加が出来ない状況なので、面会（窓越し）については風通しを良くして継続して欲しい等時節に応じた意見が出されている。	充実したメンバー構成の開催であり、対面開催が出来る状況になれば、ホームの課題や地域における問題点等具体的に課題を提示して話し合うことを検討頂きたい。例えば、職員の持つスキルを発揮できるような話し合い等地域に息づいたホームとして運営推進会議が一層充実されることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	raware	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、利用者様の状況報告を行っている。 又、担当の方と常に情報提供し合い、協力関係を築いている。	運営推進会議への参加は今のところ得られていないが報告により意見が寄せられたり、毎月の状況報告、市の認知症サポート(企業向け)キャラバンメイト会議等に参加している。地域包括支援センターには空き状況を発信し、在宅困難事例等の相談や入居申し込み等協力関係が構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍のため、外部の研修会への参加は出来ていないが、施設内での身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。スタッフがお互いに注意し合うよう心がけている。また、常に開放感のある雰囲気を保っている。	各ユニット毎に朝礼時に資料を確認し、身体拘束廃止委員会により先ずは危険な場所有無を視覚で確認し、センサー使用には外すことが出来るか等を検討している。ニュースで把握した事例をもとにディスカッションをして自分たちのケアを振り返るとともに、職員同士もケアの中に拘束・虐待に当てはまるケアは無いかなどを具体的に話し合い、大きな声になること等を注意喚起するとしている。入居者の帰宅願望や外出傾向の把握とともに、天気の良い日には外に出れるという自由な環境が整備されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため、外部の研修会への参加は出来ていないが、施設内で研修を実施し理解を深めている。また日頃からお互いが注意し合えるよう心がけ、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての活用はまだないが、研修会等への参加をし理解を深め活用できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの内・外を見ていただき、ゆっくりと丁寧に書類説明を行っている。 不安の内容に質問や要望を聞き、安心していただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	raware	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会時に利用者様の状況を伝え、要望も聞いている。玄関には意見箱を設置している。 要望に関しては、朝礼時に内容記載したスタッフと話し合い運営に反映している。	毎月の利用料支払いを訪問のきっかけとして家族と関わる時間を作り、ホームから情報を伝えている。更に、運営推進会議録及びホーム便りでの情報発信は家族への安心感となり、状態変化等には随時報告し、家族からの多くの相談等を受けている。家族との良好な関係や訪問時に気軽に申し出る関係が出来ており、家族の苦情や要望の申し出には即時対応している。	コロナ禍以前のような家族との交流等、コロナ感染症の状況次第では再開されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務見直しやグッドライカードを設置している。その時に意見を聞き、耳を傾け対策を行い運営に反映させている。	2ヶ月毎の全体会議により職員の意見や提案を基にした話し合い等合議により決定する体制としている。現在は昼食兼休憩時間を事務所として、代表は1対1の時間を職員とのコミュニケーションの時間として、職員の“して欲しいこと”等の要望を収集する他、家庭的な問題等も相談に応じている。あまり変わりの無い職員体制に、働きやすい環境である事が表われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが個性を活かし、働きやすい環境づくりができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のためリモート研修に参加している。また個別に職員の能力を把握し、技術評価を行うことで一人一人の能力を把握し、能力に合った助言・指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホームの会(ブロック会)に参加し、情報を交換し常に質の向上の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	raware	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーからの情報や、ご本人より不安や要望などを聞き、新しい環境の中で安心して生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関しては、家族が困っている事や不安などに耳を傾けている。入所された翌日には状況を報告し、家族との信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望に対応して、安心できる支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯たたみなど、日常生活を通じてできる事を楽しく手伝いながら、利用者同士で支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方々とコミュニケーションが取れるよう努め、来所時には必ず声をかけている。日頃の様子を詳しく報告したり、ご家族の要望を聞いたりして共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で地域の方々やボランティアの方々との交流は控えている。面会に来られた際は窓越しで、携帯電話での会話をして頂き、お互いの関係が途切れないよう支援している。	家族や知人の訪問や、家族の協力による墓参、携帯を持ち込み家族との相互連絡等関係性が途切れないように支援している。また、逆デイサービスさながらの夜はホームで、昼間は自宅という支援に努めたケースもある。入居者同士の関係性から意欲のある生活へと繋がる等入居者同士や職員との馴染みの関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	raware	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方々との会話は見守りを行い、一人でおられる方には傍に寄り添い対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も連絡を取り、悩みや相談事など支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が食べたいものや行きたい場所などの希望がある時は、思いが実現できるよう努めている。	職員は日々のケアのなかで、誕生日には本人の希望を取り入れた食事を提供する等、「食べたい・行きたい・〇〇して欲しい」を聞き取りしている。自分の思いの表出が難しい方や意思疎通困難な状況には行動・言動の推察や家族に聞き取りし、プランへ反映させている。無口で自分の思いを出されない方には出来ることを見出し、茶碗拭きや台拭きなど意欲のある生活へと改善も見られる等職員の関わりの結果が表われている。また、難聴の方には筆談等非言語的コミュニケーションを駆使しながら聞き取りしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前の暮らしと入所後の暮らしに変化がないよう、ご家族に情報を得ながらサービス利用の経過に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や心身状態の把握に努めている。本人ができる部分は大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	raware	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを行い、プラン作成前にスタッフ同士で話し合いを行っている。ご家族には担当者会議で要望などを聞き、介護計画を作成している。	毎月のモニタリングによる評価、プラン見直しには長谷川式から取り直し、本人・家族の要望をあらためて聞き取りし、ニーズに即したプランを作成している。新規入居者には入浴への自信回復や役割のある生活をプランする等自立に向けたプランがADLアップや明るく過される様子等に生かされる等プランニングの確かさが表出しており、具体的なサービス内容である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個人記録に記入している。スタッフ間で情報を共有し、申し送りノートにも記入し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の予定から急遽外泊となった場合には御自宅まで薬を届けるなど、要望に出来る限り応え、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため地域の行事への参加などは出来ていないが、周辺地域の情報収集や支援に関する情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の要望は主治医に報告し、温度表を持参して情報交換を行い支援している。	もともとの専門医への受診（職員が受診支援）、かかりつけ医からの訪問診療（2ヶ所）等希望される医療を支援している、ホームでの健康チェック等を主治医に情報を提供すると共に、状況・状態変化には随時家族等に連絡を行い安心に繋げている。認知状況の厳しい場合には看護師と職員2名で受診を対応する等適切な医療を支援している。家族同行の受診後に、食事による家族とのひとときを過される方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	raware	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化の場合は、看護師に報告し早期発見に努めている。かかりつけ医との連携を行い、適切な診察が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、スタッフが洗濯物を取りに行き、状況や情報交換を行っている。病院との連携を図り早期に退院できるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より重度化について説明された時は、御家族へ十分な説明をし話し合い納得していただき書類に承諾・捺印してもらい、連携を図りながら日常生活全般を支援し取り組んでいる。	入居に際し、ホームでの重度化・終末期ケアについて説明し、介護度(介護3)によっては特別養護老人ホームの利用も可能であることを説明しているが、殆どの家族がホームでと望まれており、どこまでの医療をするかを家族と合意している。本人及び家族の望みや同意を得て入居者の最終章を支援している。	家族から“延命治療は望まない”との希望も出されているようであるが、急変時には病院へとの主治医からの指示もあり、ホームとしては葛藤もあるようである。ホームで今できる最大限のケアにより、一日でも長くホームでの生活が継続出来るように支援いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて研修会や勉強会に参加し、訓練を行い身に付けている。 問題が生じた時はすぐに勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、消防訓練を年2回実施している。常に利用者の状況を把握し、出勤時には初期消火から通報までの流れを再確認している。コロナ禍のため地域住民との訓練は出来ていない。	消火・通報・避難訓練を夜間想定(台所からの出火)として行い、自然災害(水害・地震)も同時に訓練している。台風の報道に事前の準備等有事に備え、備蓄も用意されており、リスト化することを検討いただきたい。	ハザードマップの変更により洪水の危険性のある場所になったようである。今後の訓練に運営推進会議のメンバーや近隣住民等も協力を依頼される等地域との一層の協力体制の強化に期待される。

自己	外部	項目	自己評価	raware	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを守り、大きな声で話したり傷つける事がないように十分注意している。	毎年、プライバシーの保護や情報の保護、守秘義務などについて勉強会を開催している。呼称については家族からの意向で下の名前としたり、本人の反応を見ながら呼びかけている。入居者と職員と長年の暮らしの中で職員を孫と捉える入居者もおられたり、耳が遠い方も多くなり大きな声になりがちと言う中で職員同士が注意しながらケアに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思決定を尊重し対応を行っている。難聴の方には筆談で伝え、また手振りやジェスチャーなどの表現を交えてコミュニケーションを取ることで本人様の意思決定を支える働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の声に耳を傾け、一人ひとりのペースを大切にし生活のリズムを把握し、毎日が楽しく過ごして頂けるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を使う方、電気シェーバーで髭そりをされる方とそれぞれ本人様の自由に出来るよう支援を行っている。また定期的に訪問利用などの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑での水まきや収穫など手伝ってもらったり、「今日は何の料理になるかな」など会話を楽しんでいる。食事の下ごしらえや食器ふきなどもスタッフと共に行っている。	開設当所から30種類を目標に、毎日手作り料理を提供している。時には味噌汁や目玉焼き等の朝食作りをされる入居者や、ジャガイモの皮むき・ごぼうのささがき、つぎ分けなど入居者と職員の共同作業が自信や達成感へと繋げている。近隣からの野菜の差し入れや畑で作る旬の野菜を使った料理や行事食、移動パンやキッチンカーの立ち寄りの他、ドライブスルーを活用する等楽しみのある食を提供している。また、入居者から教えたもらいながら作る“焼きだご”等懐かしいおやつも提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	raware	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を工夫したり補食をしたりしながら食事摂取の支援をしている。一点食をする方には大皿に主・副職を盛りつける等工夫している。定期的に体重測定をし、増減に応じて食事の見直しを行っている。水分摂取が進まない方には時間をみて声をかけ、水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄や口腔ケアの声掛けを行っている。歯磨きができる方にも見守り、声掛けし残存物がないよう支援している。歯科往診において義歯の洗い方や、歯ブラシの使い方等指導を受け、実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表での確認と、時間ごとの声かけで誘導を行っている。車椅子使用の方でも立位が出来る方には自立を促し、困難な方はスタッフ2人介助で対応している。	排泄チェック表によりパターンを把握し、毎食前後やおやつ前後に声を掛け、日中はトイレでの排泄を支援している。尿量によるパットの種類の検討及び定期的なおむつ交換を行う等心地よく過ごせる様支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便-1日目から氷水や大根エキスで対応し、食物繊維を多く含んだ料理を取り入れたり、スタッフと共に歩行練習などに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿って入浴して頂いている。毎月、季節のお風呂を楽しみにされている。	冬場は3日に1回、夏場は一日置きの入浴としている。1月はひのき湯、2月はよもぎ湯、3月は桃湯、4月は桜湯、5月は菖蒲湯等毎月楽しみのある入浴を支援している。時には入浴拒否もあるが、無理には誘わないとし、入居者の中には入浴後の炭酸飲料を楽しみとされる等個々のタイミングを把握しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	raware	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活スタイルで気持ちよく過ごせるよう自由を尊重し支援している。夜間の睡眠状況に応じて日中に静養をとって頂くなど一人ひとりの状態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用などに関して、薬剤情報説明書に目を通し把握するようにし症状に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができる事に楽しみを持っていただけるよう、計算ドリルや謎解きドリルが出来る方には取り組んで頂いたり、食器拭きが得意な方には行っていただいたり等の支援している。他にも音楽に合わせた運動を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はできていないが、天気の良い日には敷地内で散歩して頂くなど気分転換を楽しんでいただいている。	天気の良い日の散歩や入居者の希望に応じたドライブスルーでの買物、近くの公園での花見等車椅子でも外に出る機会を作っている。また臥床中心の入居者の部屋でのお茶会等外に出なくても楽しめるよう工夫している。	コロナ禍のなかで、今出来る限りの外出を支援されている。コロナ感染症の緩和により、家族の訪問時に一緒に散歩に出てもらう事等も検討頂きたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている事で安心される方には支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望される際は支援を行い、安心していただいている。また、手紙のやり取りも自由にできる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	raware	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に毎月の新聞便りを掲示し、トイレや居室の入り口には表札や目印になるものを飾っている。定期的に換気を行い、風通しをよくしている。また季節を感じていただけるよう(雛人形など)工夫もしている。	感染対策に掃除や換気を徹底するとともに、地震後には鏡を取り外す等安全対策を徹底し、大きなテーブルへと替えたことで入居者同士が仲間として会話も弾む環境となっている。ソファも、より座りやすいものとへ取り替え、時節柄雛人形を飾る等、季節感を醸している。また、ホームの庭先の季節の草花や、周辺の田畑風景が季節の移ろいを楽しませるホームである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくり居室でテレビ鑑賞されたり、天気の良い日は外でお茶を楽しんだりできるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の愛着のある鏡台や椅子など、使い慣れたものを持って来ていただく事で安心感がわき、また、一人ひとり居室のカーテンや壁紙も違うので居心地よく過ごして頂ける工夫をしている。	入居時に居室への持込み品を説明しており、テレビ・タンス・仏壇や遺影、電気式線香等自宅の沿線として持ち込まれた居室や、病院か直接の入居となった方にはホームの物で対応することもある。また、プラスチックタンスは軽さから動くことも予想され、転倒のリスク面からお断りしている。居室中心となった入居者のベッド配置はいつでも外が見れるように配慮する等職員の工夫が反映した居室環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名札や飾りで自分の居室とわかるよう、また、「湯」ののれんや「便所」の表札で場所が分かるようにし、自立に向けた生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300865		
法人名	有限会社 郷		
事業所名	グループホーム郷 二丁目		
所在地	熊本県宇城市松橋町西下郷236番地		
自己評価作成日	令和4年7月26日	評価結果市町村受理日	令和5年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染の拡大がみられる中、スタッフ一人ひとりが自覚を持ち感染対策に気を配りながら利用者様のケアに携わっている。常に本人様とご家族様の関わりを大切にしている。本人様のポテンシャルを引き出すため、散歩やガーデニングティーなどの活動参加を目的としケータリングカーでの訪問販売に来ていただき、利用者様が直接関わることなく敷地内で外出気分を味わっていただいたりドライブスルーを活用するなど、新しい試みに取り組んでいる。今後もコロナ禍を配慮しつつ、できるだけ生活に張りを持てるように支援を行っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員が理解し「自由・自立・安全・社会的支援」を理念として実施できるよう、採用時からミーティング・毎朝の朝礼で唱和を行いそれぞれのGHでも折に触れ都度確認し合っている。日々、利用者に関わる際には常に念頭に置き、理念を意識したケアを心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため地域との交流は難しい状況にあるが、ボランティア会長との情報交換を行い、定期的な訪問を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症の方の理解をしていただく為の働きかけを行い、また地域の方より介護保険についてや認知症の方の相談があった場合には自宅へ訪問し支援を行っている。また地域包括支援センターへつなげる等一人でも多くの方々へ正しく認知症の方の理解を高めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で「郷新聞」を発行しているほか、紙面にて利用者状況やサービスの実際、ホーム内での活動報告、行事、地域交流、職員研修報告を行っている。参加者の意見を聞き、現場サービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き状況や近況報告をしあい、質問・疑問の際はその都度連絡し助言を頂いている。市町村連携を深める為、ディスカッションの依頼を求め協力関係に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の朝礼で県の資料に基づき職員同士で確認を行っている。利用者が外へ向かわれた際はさりげない見守りや付き添いをする等、その方の思いに寄り添っている。安易な拘束は弊害が多いことを認識し、安全で自由な生活をしていただけるよう、個々に合わせたケアを行っている。身体拘束廃止委員会を開催し、職員間で意見交換を行い、ケアの振り返りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時、県のライブラリーを利用し言葉の暴力やネグレクト等虐待と気が付かず行っていることはないか理解を深め、職員間で声を掛け合うことの大切さを確認すると同時に、管理者はスタッフのストレスの要因について配慮し、時には気分転換の場作りや、介護への対応への助言をしている。また排泄時や入浴時、起床時、就寝時のケア時には身体の観察を行い、打撲等を発見した場合には即原因を探り対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は勉強会に参加し理解を高めている。コロナ禍のためZOOM(ウェブ会議ツール)を活用し参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて全ての事項について理解されるまで丁寧に説明し、同意を得ている。重要事項説明書以外の要望や不安な事など、耳を傾けながら可能な限りその意向に応える様努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	少なくとも毎月の家族の来所時は、常に話しやすい雰囲気作りを心掛け、要望や思いを伺って安心感を得て頂ける様取り組んでいる。玄関に御意見箱を設置したり、入所時に苦情相談窓口がある事を説明している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グッドライカード箱を設置し、職員一人ひとりの声に耳を傾け、月1回業務見直しや意見交換の場を設け反映させている。また、代表者や管理者は運営に関する全体会議を定期的に行い、意見を持ち寄って話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの能力や役割を理解し把握することで、個別に職員の能力が発揮できる様努めている。又、資格取得へも支援し、発揮できる場への配置転換を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を実施し、法人外の研修にもZOOMを活用し積極的に参加している。個別に職員の能力を把握し、技術評価を行うことで能力にそった助言・指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中、連絡を取り合い、意見交換や他のグループホームと相互訪問をしい、情報交換を行い、サービスの質や今後の取り組みについても検討している。またZOOM(ウェブ会議ツール)を活用した勉強会に参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活背景・生い立ちをしっかりと理解し、可能な限り本人の生活状況を知る為に生活の場を訪問し面談している。一つでも多くの情報を頂ける様、雰囲気作りを心がけ、思いを受け止め本人様が不安なく信頼関係が築ける様努めている。入所前訪問も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や苦勞、要望をしっかりと聞くようにし、家族の理解者であるを伝え、ともに介護していく事を納得してもらうことで安心して頂くよう努めている。本人様にどのような支援が大切なのか一緒に考えていく姿勢で、時間をかけて気持ちを受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかりと取り、本人様にとってその時点で何が必要なのかを見極め、事業所として最大限に出来る事を共に考えて、サービス調整を行っている。また事業所だけに留まらず、必要に応じてそれぞれのサービス協力を依頼し、段階的な支援に努力している。入所前のCMとも協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「我が家」と思ってもらえるような環境づくりをし、自分の感情(喜怒哀楽)を自然に出せるよう、また、生活習慣を把握し得意分野を活かした作業に協力してもらえる関係に努めている。料理の下ごしらえ・お茶入れ・食器吹き・洗濯物たたみ等の家事を一緒に行っている。人生経験豊富な話も聞け、職員が励まされたり労わってもらう場合も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の方から要望を伺ったり、利用者様の近況報告や郷新聞を送付してホーム内の行事案内をすることで身近に感じていただき、お互いの距離が出来ないように関係づくりを行っている。コロナ禍であるため面会は窓越しで携帯電話を活用し、お互いにお顔が見れるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響でふるさと訪問はできておらず、本人様と関係のある方との交流は減ってきているが、できる範囲で関係を繋げている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係や相性などを把握して席の配置を工夫したり、孤立しがちな利用者様に特に気を配り見守っている。また、利用者様同士の関係が上手くいくように職員が間に入って調整役となるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも連絡を取り合い、その後の経過を見守りながらいつでも相談や支援にできる限りの対応をする姿勢を示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いをうまく表現できない利用者様も多いため、日々の関わりの中で思いを推し量るように雰囲気作りをしながら努力しているが、困難な場合も多い。その場合はご家族の意向を尋ねながら本人様の立場になって検討するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様・ご家族との関わりを積み重ねながら、入所前の生活との違い等なるべく多くの情報を早い時期に把握し、入所されても今までの関係は変わらず、そしてその中に職員を入れて頂く思いで関わっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様と向き合い、日々の小さな動作や行動から一人ひとりの思いや生活リズムを理解し、できる事やわかられる所での見落としがない様努めている。又、得た情報を職員間で共有できるよう記録し、申し送りで話し合い、伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを立案し、日々の関わりの中から把握した事などをプランに沿って記録を実施している。月1回のモニタリングを行い、本人や家族の意向を再確認しながら新たな課題やケアの在り方を確認し、意見交換しながら具体的なプラン作成をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性と活用方法について職員が知り、ケアプランに沿って記録を行っている。ミーティングを通してケース検討や情報の共有、ケアの統一を図り、それをモニタリングしながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生会には本人様のリクエストにお応えしたデザートを準備したり入居様が外食をしたいと希望される方にはコロナ禍のためドライブスルーを活用したりと、本人様の要望に応える工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の周辺情報や支援に関する情報交換や協力関係を築き、地域の方々がいつも行き来できるようにし、フォーマル・インフォーマルの協働をもとに本人がつながりを持ちながら生活できる支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や御家族の意向を確認したうえでかかりつけ医を決定している。家族・職員が連携して通院支援をし、受診時は経過報告やデータを持参し安心して受診ができるよう支援している。又、家族が同行不可の時は受診後に家族へ報告し個人記録へ記入している。場合によっては主治医から家族へ説明を依頼している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様のいつもと違うちょっとした事でも速やかに報告・相談を行い、看護職の指示を仰ぎ、情報連携のポイントを絞っておき、安心して受診ができる様連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員がホームでの情報を医療機関に提供する事で本人・家族のストレスや負担が軽減され、入院中認知症状が進行せず安心して集中治療がスムーズに行えるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	郷での終末期のあり方について、入所時より説明し本人・家族の意向を確認している。重度化の説明があった場合は、家族・職員・かかりつけ医を交えて今後の方針について話し合いを密にし、事業所の力量を把握して現状支援の見極めを行っている。その後、スタッフ全体で段階ごとに話し合いをしている。また看取りを終えた後には職員でカンファレンスを行い、ケアの振り返りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修では、新人研修から段階をふんで急変時の対応について指導を行い、院外研修でも学習の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と共に災害訓練を行い、職員全員が一人であっても速やかに落ち着いて行動できるように遅出(一人になる時間帯の職員)や当直で勤務に入る時は初期消火から通報までの訓練を行っている。又、居室の入り口にはADL状況を示したカードを下げ、近隣の方が認識できるように提示している。標示している。備食は缶詰・乾パン・飲料水などを車庫に確保しており、簡易トイレ・毛布等も準備してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応の中で親しみを込めたつもりが実はなれ合いの実は対応ではなかったか自尊心を傷つけてはいないか、常に振り返りの機会を持ちスタッフ同士その場で注意したり、ミーティング等を行い等を行い対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの生活習慣、生活リズムを大切にし、それに合わせた支援を心がけている。特定の利用者のペースに巻き込まれる事で他利用者のペースを崩す事がないよう気配りしつつ、利用者のつづやきや利用者同士の会話を聞き逃す事なく希望に沿える支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣、生活リズムを大切にし、それに合わせた支援を心がけている。特定の利用者様のペースに巻き込まれる事で他利用者様のペースを崩す事がないよう気配りしつつ、利用者のつづやきや利用者同士の会話を聞き逃す事なく希望に沿える支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の生活の中で、女性はお化粧をされたり男性は電気ひげそりをまめにかけられ自由にされている。一緒に洋服を選び身だしなみの支援を行っている。又、理美容もボランティア・行きつけの理美容・訪問美容と選択ができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や家庭菜園で採れた野菜を提供し、利用者の要望を伺いながらメニュー変更したり食材の下ごしらえや食器拭き等、一人ひとりの力を発揮してもらい楽しい食事に取り組んでいる。旬の野菜の下ごしらえをすることで季節を感じる機会となっている。又、本人が得意とされる饅頭作りなど、指導者としても発揮して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様によっては食事・水分チェックシートを活用し、一日の摂取量を把握している。定期的に体重測定を行い、増減に応じて食事の見直しをしたり補食を提供して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、利用者様それぞれに歯磨きの声掛けやうがいの促し、義歯洗浄を行い、義歯の状態・口内炎の有無などの口腔内チェックを行っている。必要に応じ訪問歯科への相談もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄支援を基本とし、オムツをせずつむ生活を目指し一人ひとりの排泄時間を記録し排泄パターンの把握、利用者ができる部分に対しての見守り、介助が必要な部分での支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェックを行って便秘の原因を探り、必要に応じ自家漢方の大根エキスやゴーヤ粉末を提供している。食事では家庭菜園の新鮮野菜を多く取り入れ、1日2回の機能訓練やレクリエーションでの活動等、ストレスも考え便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尋ねながら身体状況を確認し入って頂いている。入浴が楽しめるよう季節感を取り入れながら、ばんぺい湯・バラ湯・ヒノキ湯・ゆず湯・しょうぶ湯等月替わりでイベント湯を行ったり、入浴剤を数種類用意し楽しんで入浴ができるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースで過ごして頂きながらも、なるべく日中の活動性が向上し、夜間に良質な睡眠がとれるように生活リズム作りを働きかけている。体調や体力、生活スタイルに合わせ休養が必要な場合、その人が安心して落ち着ける場所の提供をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時の状況報告に対しての薬剤情報を必ず確認し処方に変更があった場合は申し送りを徹底し情報交換・観察・症状等の確認に努めている。又、日常での記録を提示し情報交換を行い、治療や服薬調整に活かせる様連携し、確実な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりのできる事を生活の中で発揮してもらえるように、その人に合う役割を見出し、負担にならない程度の作業を心がけ支援している。読書をされたり歌を歌われたり。塗り絵をしたり好きなことをされる時間を大切にしている。又、嗜好品を楽しめる様家族への連絡を図り、周囲の利用者への配慮をしつつ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	四季を感じて頂けるような外出を計画したり、思いつきのまま外出を行っている。又、利用者間での会話の中で本人の希望を話された時など聞き逃す事なく希望に応じる為、知人・家族・地域の方々へ協力をお願いし、外出の支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が手元に持っておきたいと希望があった場合、家族の合意のもと自由に所持され、使用も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話をかけたりされるので、準備や支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは広くいつも自然の光が入り、廊下の途中にも吹き抜けが設けられ明るい空間となっている。トイレも明るく、外を眺め開放感がある。リビングに面した台所からは調理の音・匂い等でくつろぎ感がある。季節を感じられる様にひな祭り・クリスマス・七夕・こいのぼり等壁飾りや生花、利用者で作成した手作りカレンダーを月毎に変える事でぬくもりある雰囲気作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングにソファを配置し、足が延ばせるような空間を作っている。また日向ぼっこが出来る場所など利用者のお気に入りの場所を作ったり、廊下にソファを置き1人の時間が作れるよう配慮している。気の合う仲間と一緒に過ごす時間を過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせるように、使い慣れたタンス等の家具や写真、家族の位牌、仏壇など馴染みの私物を持ち込んで頂き、家族と相談しながら、個人を大切に考え、温かい居心地作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間の要所に手すりを設置している。自立した生活ができるようトイレの表示をし、自室がわかりにくい方へは飾り付けをし工夫している。又、食卓椅子で傾きのある方には、両肘かけが付いている椅子を用意し安全確保に努めている。		

開設して経年、地元の力を得ながら今あるホームを作り上げてきた職員も多く、代表及び管理者を中心として意思疎通の良い環境させたり、思いの実現の具体化は日常生活の彩りとして生かされきたい等にドライブスルーでの買物やキッチンカー、移動パン等を使うという社会性を継続させ、入居者を人として尊重し、生活歴反映させている。これまでの築き上げてきた地域での確固たる基り地域へ出る機会が減少したものの、“今”を視野に出来ることである。

たとする謙虚さと、勤務歴の長
は、入居者の出来る力を発揮
ている。入居者の食べたい・行
を活用し選択出来る環境やお金
・習慣・嗜好等の背景をケアに
盤のなかで、コロナ感染症によ
也元住民との交流に努めてい